

評価者	教育部長	佐々木 聡
-----	------	-------

評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針	学習環境の整備・充実
生涯学習センター、図書館など本市の生涯学習施設が充実し適正に整備され、利用しやすい魅力ある施設となっています。また、市民が自らの学習内容にあわせて、本市の生涯学習施設、関係機関、学校、民間施設などを効果的に活用することができるなど、学習の場が十分に確保されています。毎年、多くの市民が生涯学習センターを利用し、自らの興味関心にそって自発的に学習する習慣が広まっています。				

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成30年度(2018年度)	14.7%	平成29年度(2017年度)	17.2%	平成28年度(2016年度)	14.6%
	平成27年度(2015年度)	17.5%				

(2) 妥当性

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.8%	1.7%	0.7%
ちょうどよい	3.5%	50.9%	1.5%
効果不十分	4.0%	4.5%	12.2%

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	2.8%	0.7%	0.4%
ちょうどよい	4.6%	50.3%	1.4%
効果不十分	5.1%	2.5%	10.2%

平成29年度(2017年度)

施策の方針全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.8%	1.6%	0.2%
ちょうどよい	5.2%	51.7%	1.2%
効果不十分	4.8%	2.8%	11.4%

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	2.1%	1.7%	0.0%
ちょうどよい	5.3%	47.5%	1.1%
効果不十分	5.4%	3.4%	10.3%

平成27年度(2015年度)

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成30年度(2018年度)	25.6%	49.8%	5.5%	19.2%
平成29年度(2017年度)	20.2%	51.0%	6.5%	22.3%
平成28年度(2016年度)	21.3%	52.0%	6.7%	19.9%
平成27年度(2015年度)	20.7%	50.8%	5.2%	23.3%

2 内部評価

(1) 平成30年度(2018年度)の目標

生涯学習施設の適切な管理を行い、利用しやすく快適な学習環境を提供する。(教育-12、13、39)
 歴史的公文書の選別作業を進めながら、今後の体制整備を検討する。(教育-38)
 9～11月に中央図書館と腰越図書館において、開館時間の試行を行い、図書館職員の体制検討を行い、利用しやすい魅力ある施設づくりとなるよう取り組んでいく。(教育-39)
 図書館のビジョンを確立し、第3次鎌倉市図書館サービス計画を策定する。(教育-39)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成30年度(2018年度)の目標との関連性

生涯学習施設の適切な管理を行い、利用しやすく快適な学習環境を提供することで、多くの市民が自らの興味関心にそった学習の機会に恵まれ、自発的に学習する習慣を広めることができる。(教育-12、13、39)
 歴史的公文書選別作業に関する体制を整備し、適正な管理を行うことによって、市民が自らの学習内容にあわせて効果的に資料を活用できるようになる。(教育-38)
 図書館の夜間開館時間延長等の試行を実施し、市民ニーズを把握することによって、市民が利用しやすい魅力ある施設とすることができる。(教育-39)
 図書館のビジョンを確立し、サービス計画を策定することで、図書館等資料を収集、整理、保存して市民等の利用に供し、市民自らが教養を高め、調査、研修等に活用される学習環境の整備、充実につながる。(教育-39)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
整理番号	事業名	平成30年度 (2018年 度)	平成29年度 (2017年 度)	平成30年度 (2018年 度)	令和元年度 (2019年 度)	平成 30年度 (2018 年度)	令和 元年度 (2019 年度)		事業 内容	予算 規模
教育-12	吉屋信子記念館管理運営事業	2,055	1,829	10,684	5,320	1.1	0.3	無	a	A
教育-13	生涯学習センター管理運営事業	159,200	227,057	199,207	346,563	5.1	4.7	無	b	A
教育-38	市史編纂事業	2,242	2,108	3,786	3,831	0.2	0.2	無	a	A
教育-39	図書館管理運営事業	142,332	131,053	310,624	328,973	21.8	22.8	無	b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】
 吉屋信子記念館の適切な維持管理を行うとともに、一般公開業務や施設利用業務など、学習環境の提供を行った。(教育-12)
 生涯学習センターは、管理業務補助嘱託員の配置や、生涯学習センターの運営に必要な総合管理、生涯学習ネットワークシステムの保守管理、各所修繕など、施設の維持管理を行いながら、学習環境を提供した。(教育-13)
 市史の編纂に伴い、歴史的公文書の候補文書を回収し、文書内容を確認、選別を行った。併せて、選別作業方法、場所、会計年度任用職員の活用を含めた人員体制等を検討した。(教育-38)
 平成30年(2018年)9月から11月までの3か月間、中央図書館及び腰越図書館で月曜日休館、午後6時までの開館時間延長の試行を行い、図書館の効率化とサービス向上に向けた検証作業を行った。(教育-39)
 鎌倉市図書館ビジョン及び第3次鎌倉市図書館サービス計画を策定した。(教育-39)

【実施できなかった事業とその理由等】

(5) 平成30年度(2018年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	適切	要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	適切	要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	適切	要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	適切	要改善

<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>

- ・生涯学習センターについて、非常勤嘱託員を活用した運営を行ったことから、効率性を適切と評価した。(教育-13)
- ・歴史的公文書の選別作業について、過年度文書の作業を完了することができたため、妥当性を適切と評価した。(教育-38)
- ・図書館の月曜日休館、午後6時までの開館時間延長の試行を実施し、市民ニーズを把握し、図書館の効率化とサービス向上に向けた検証作業を行ったが、結論を出すには至らなかったため、有効性を要改善と評価した。(教育-39)
- ・鎌倉生涯学習センターについて、利用者の安全確保のため予定を早め平成30年(2018年)12月28日から休館とした結果、急遽利用ができなくなった団体があったため、公平性を要改善と評価した。なお、利用団体に対しては、事情説明、代替施設の紹介等の対応を行った。(教育-13)

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

鎌倉生涯学習センターの耐震改修工事を、計画的・効果的に進める。(教育-13)
 歴史的公文書の選別作業を含め、近代史資料及び市史編纂について、今後の体制整備を検討する。(教育-38)
 蔵書の充実を図るとともに、快適な学習環境を確保するため、施設の維持修繕に努める。(教育-39)
 利用者からの意見聴取以外にもeモニターの活用や図書館外への出張サービスでのアンケート等を通じ、図書館を利用しない方を含めた市民の図書館に関するニーズの把握に努める。(教育-39)

(7) 令和元年度(2019年度)の目標

鎌倉生涯学習センターの耐震改修工事を計画的に進め、令和2年(2020年)の開館に向けた準備を滞りなく行う。(教育-13)
 近代史資料室について、早期により多くの近代史資料を市民が活用できるデータの公開等に取り組む。(教育-38)
 図書館に関する市民ニーズに合った図書館の運営体制の検討を進める。(教育-39)

(8) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

生涯学習施設の適切な管理を行い、利用しやすく快適な学習環境を提供することで、多くの市民が自らの興味関心にそった学習の機会に恵まれ、自発的に学習する習慣を広めることができる。(教育-12、13、39)
 近代史資料室の体制を整備することで、市民が自らの学習内容にあわせて効果的に資料を活用できるようになる。(教育-38)
 市民ニーズに合った図書館の運営体制を確立することによって、市民が利用しやすい魅力ある施設とすることができる。(教育-39)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-13	事業名	生涯学習センター推進事業						備考					
指標の内容	学習センター利用者数						単位	千人	指標の傾向		備考			
当該指標を設定した理由	生涯学習の振興状況を測るため						年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	耐震改修工事による施設の一部使用休止のため、目標値を変更した。
	目標値	580.0	585.0	590.0	595.0	600.0	285.0							
	実績値	627.0	560.0	535.0	539.0	473.0								
	達成率	108.1%	95.7%	90.7%	90.6%	78.8%								

整理番号	教育-39	事業名	図書館管理運営事業						備考					
指標の内容	個人貸出点数						単位	点	指標の傾向		備考			
当該指標を設定した理由	蔵書の充実を図り、多くの市民に図書館を使用してもらうため						年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
	目標値	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000						
	実績値	1,382,363	1,411,599	1,349,752	1,332,565	1,325,723								
	達成率	92.2%	94.1%	90.0%	88.8%	88.4%								

整理番号	教育-39	事業名	図書館管理運営事業						備考					
指標の内容	来館者数(平成30年度(2018年度)よりカウント開始)						単位	人	指標の傾向		備考			
当該指標を設定した理由	図書館への来館目的は、館内閲覧、利用者用インターネットの利用など、貸出を伴わないことも多いため						年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
	目標値	-	-	-	-	850,000	860,000							
	実績値	-	-	-	-	853,311								
	達成率	-	-	-	-	100.4%								

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

・図書館について、施策の方針が「環境の整備・充実」として「環境の整備」はしているが、「充実」の取組はしていない。

・「目標とすべきまちの姿」にある「自主的に学習する習慣の広まり」に対する施策としては全体的に取組が消極的すぎる印象がある。また「利用しやすく快適な学習環境」を提供することで「自主的に学習する習慣」が「広められる」のだろうか。

・生涯学習センターは「集会場」としての役割が大半(全体利用者数54万人講座参加者1万人)であり、その位置づけの再検討が必要である。

指摘への対応、コメント等

・図書館においては、環境の整備だけでなく、子どもや高齢者、図書館の利用に障害がある方への支援や、地域図書館も含めた地域資料提供などサービスの充実に努めています。

・利用しやすく快適な学習環境を提供し、その場所を多くの方々が利用している状況を広く周知、また、学習機会等を啓発することにより、広まりへの一助になると考えています。

・生涯学習センターは、利用しやすい魅力ある施設として、また、学習機会が提供される場所として、貸館機能と主催事業の分担等を含めた位置づけについて、検討していきます。

提言

・図書館機能の充実が必要と考えるが現在の蔵書内容で市民は満足しているのか？貸出し実績によるは廃棄・スペース確保と市民寄附による蔵書の充実化を図りたい。

・学習施設の運営が上手くいっている他の自治体を参考に、運営方法を考えるべきではないか。

・「目標」と実施した事業の内容に関連性がない。

提言に対するコメント等

・資料の収集にあたっては、市民からのリクエストに応えながら、地域の状況に沿った蔵書の構築を進めており、寄贈資料も積極的に活用しています。今後も効果的な選書と蔵書の更新に努めていきます。

・運営方法については、今後の検討課題と考えており、先進都市の事例など参考にしながら、検討を進めていきます。

・提言を踏まえ、目標と実施した事業内容の記述については、関連性がわかるようにしました。

質問

・「専門業務嘱託員」は何のために配置し、どのような効果があったのか？何が効率化されたのか？

・何をもって「適切」や「妥当」と判断しているのか？改善の必要性を認めながら、何故「要改善」ではなく「妥当」なのか？

質問に対する回答

・専門業務嘱託員は、カウンター業務に加え、職員が行ってきた図書館行事のプログラムの企画やボランティア調整等の業務の一部を担っており、職員の負担軽減に効果はありますが、どの程度の業務の効率化が図れたかは引き続き検証していく必要があります。

・市民意識調査において妥当性が約50%「ちょうどよい」という結果が得られているため、目標とすべきまちの姿の実現に向けては「適切」「妥当」と判断しました。しかしながら、指標の目標値に根拠が乏しく、さらに達成していないこと、またその指標自体もアウトカム指標となっていないことから、改善の必要性があるものと考えており、次期基本計画策定の中でも新たな視点でのアウトカム指標の設定を検討しています。

学習環境の整備・充実

評価できるところ

- ・吉屋信子記念館の維持管理、一般公開業務や施設利用業務などを実施、一般公開業務(地元限定公開)や施設利用業務などを実施した。
- ・鎌倉生涯学習センターの維持管理に努め、トイレの洋式化やオストメイト対応のトイレの整備など利用しやすい施設づくりを進めた。
- ・図書館の開館時間の延長の試行を行ないサービス向上につとめている。
- ・「取組の評価」で有効性・公平性をいずれも<要改善>としていて、前例踏襲主義ではない今後の新たな展開に期待したい。
- ・指標に「図書館来館者数」を設定したのは妥当と考える。

		評価の内訳		
取組	:	0	0	8
効果	:	1	0	- 7

委員会の評価
-

課題

- ・市史の編さんに向け、歴史的資料の整理・保存及び散逸防止を行うことが必要である。
- ・図書館について、施策の方針が「環境の整備・充実」として「環境の整備」はしているが、「充実」の取組はしていない。
- ・鎌倉生涯学習センターについて、利用者の安全確保のため予定を早め平成30年(2018年)12月28日から休館とした結果、急遽利用ができなくなった団体があった。
- ・市民の生涯学習意欲を満足させるためには場の提供が必要である。今ある市の施設の有効活用を考える。
- ・「第3次鎌倉市図書館サービス計画」には、「現在の課題」や「方針(ポリシー)」のみが提示されているだけであり、具体的な対処方法や実施計画が策定されていないため、計画とは呼べない。

提言

- ・図書館の夜間開館時間延長等の試行を実施したとあるが、その検証作業にもとづき、どうするかを検討するべきである。
- ・「図書館ビジョン」「第3次図書館サービス計画」の基本方向は？図書館運営は時代の変化や鎌倉市民特性に積極的に対応願いたい。
- ・鎌倉市図書館の「利用登録者数」は年間どのくらい増えているのか？貸し出し点数とあわせて指標にすれば、どの程度の市民に活用されているのかが分かりやすく数値として見えてくるのではないか。

質問

- ・図書館事業には市民は一定の評価を示していると考えられるが、事業全体として、どのようなプライオリティをつけて進めているのか。
- ・吉屋信子記念館の維持管理、一般公開業務や施設利用業務などを実施、一般公開業務(地元限定公開)や施設利用業務などを実施した。ツイッターやHPにより周知、近隣住民の理解などの反応はどのようなものであったか。
- ・「図書館会館時間延長の試行を実施したが結論を出すには至らなかった」とあるが、その理由は何か？
- ・図書館の開館夜間延長によって利用者の増加はどのくらいあるのか。